

# 不正競争を中心とした非登録型知財法制

## 〔目次〕

|                                                             |                        |     |
|-------------------------------------------------------------|------------------------|-----|
| ●ご挨拶                                                        | 日本弁理士会中央知的財産研究所所長 中村 仁 | i   |
| ●序 文                                                        | 主任研究員 土肥 一史            | iii |
| ●研究部会研究員                                                    |                        | v   |
| <hr/>                                                       |                        |     |
| ・ キャラクターに対する不正競争防止法による新たな保護の可能性<br>ドイツの長くつ下のピッピ事件を契機として     | 茶園 成樹                  | 1   |
| ・ 民法不法行為による不正競争の補完性<br>―「知的財産法と不法行為法」をめぐる議論の到達点―            | 上野 達弘                  | 15  |
| ・ 不正競争防止法2条1項1号における「混同」と「営業上の利益」の関係性                        | 横山 久芳                  | 43  |
| ・ 不正競争防止法上の諸要件立証のための需要者アンケート<br>―セカンダリー・ミーニング、混同のおそれ、普通名称化― | 井上由里子                  | 57  |
| ・ 商品形態と機能性                                                  | 宮脇 正晴                  | 79  |
| ・ 不正競争防止法第2条第1項第3号による商品形態の保護<br>―「無体物保護の可能性」と「保護期間」―        | 安立 卓司                  | 89  |
| ・ 裁判例等から見たノウハウ・営業秘密の法的保護<br>―民事上の救済と刑事罰―                    | 外川 英明                  | 107 |
| ・ 限定提供データとAI<br>―我が国のデータ戦略の経緯と課題―                           | 林 いづみ                  | 131 |
| ・ 品質等誤認惹起表示の救済について<br>―景品表示法、独占禁止法における類似規定との対比も含めて―         | 足立 勝                   | 151 |
| ・ 侵害警告と不競法上の虚偽事実告知に係る裁判例<br>近時の動向及び非登録型知財関係事案を中心に           | 金子 敏哉                  | 169 |
| ・ 店舗外観・内装・陳列方法の保護の競合関係                                      | 中山真理子                  | 193 |
| ・ 混同の判断における類似性の程度                                           | 佐藤 俊司                  | 213 |
| <hr/>                                                       |                        |     |
| ●事項索引                                                       |                        | 227 |
| ●アンケート                                                      |                        | 231 |